

川崎で中学1年生の男の子が少年グループに殺害されるという、またしても嫌な事件が起きてしまいました。とても残忍で、許されるはずのない犯行ですので、犯行に対する世間の怒りもよくわかりますが、かといって「少年法を改正して、もっと厳罰化すれば問題が解決する」とは思えません。「厳罰化」よりも、このような加害者になってしまうような少年たちを育ててしまっている社会を変えていくべきではないのでしょうか。これ以上、被害者を増やさないためにも、もっと加害者たちの幼少期からの育ちに目を向けるべきではないかと思うのです。

先日、NHKのクローズアップ現代で「愛着障害」についての特集がありました。

2013年6月に広島で起きた16歳の少女殺害事件の加害者の1人で、殺害を仲間と呼びかけた16歳の少女は、幼い頃から虐待を受け続けて育ち、裁判でも「愛着障害」による影響が認められたそうです。

「愛着障害」とは…(コトバンク デジタル大辞泉より)

乳幼児期に長期にわたって虐待やネグレクト(放置)を受けたことにより、保護者との安定した愛着(愛着を深める行動)が絶たれたことで引き起こされる障害の総称。愛着障害を示す子供には衝動的・過敏行動的・反抗的・破壊的な行動がみられ、情愛・表現能力・自尊心・相手に対する尊敬心・責任感などが欠如している場合が多い。他人とうまく関わることができず、特定の人との親密な人間関係が結べない、見知らぬ人にもべたべたするといった傾向もみられる。施設などで育ち、幼少期には手のかからなかった子供が、思春期に万引きなどの問題行動を起こす例もある。適切な環境で継続的に養育することで大幅な改善が期待でき、その点で広汎性発達障害と明確に区別される。

「非行少年の中に虐待を受けている子が多い」というのは、いろんな調査でも出てきているようですが、虐待とまではいなくても、今の世の中、親や周りの大人からの愛情を感じられないまま育っている子、いわゆるこうした「愛着障害」の子どもが非常に多いのではないかと感じています。

NHKの特集の中で言われていたことを少しご紹介すると…、

「愛着」というのは、「船」と「港」の関係に似ていて、「親や家族といった安心できる場所」が「港」で、「子ども」は「船」に例えられます。安心できる安全な港があれば、船(子ども)は外の海に向かって出港することができ、嵐が来たり、燃料が少なくなってきたら、港(親や家族のもと)に帰ってくるすることができます。しかし、港が安全ではなかったり、安心できる場所でない場合、船(子ども)は帰る場所を失います。「裏切られた」という経験を積み重ねることで、「自分を分かってくれる大人なんて、この世にいるはずがない」と思うようになってしまいます。(…こういう子は褒められても喜ばないそうです。)一方で、危険な目に遭うことも多いので、常に警戒し、ピリピリしているので、少しの刺激でも過剰に反応してしまうといったことも起こりやすいそうです。さらに、心の隅のどこかでは「自分のことを理解してもらいたい」と思っている面もあるので、わざと大人を困らせるような行動をとって、大人を試そうとすることもあるそうです。

## ● 愛着を形成するのにどれぐらいの時間がかかるか？

「愛着」を形成するのに時間は関係ない。短くても大丈夫。むしろ子どもの行動や気持ちに対して、必ず応えてあげているかどうかの方が重要。子どものほうから声をかけてきたときに親がしっかり向き合うことが大切で、それを無視してしまうと、いくら長い時間つきあっていても、意味がない。

## ● 愛着形成の期間、何歳までが大事？

あくまで目安ではあるが、大体3歳ぐらいを過ぎると、自然に「港」から外に出ている時間が長くなっていく。なので、いくら引き止めようと思っても、自然に3歳ぐらいからは、だんだんだんだん手が離れていくというのが実状ではないか。

今回の川崎の事件も、おそらく、氷山の一角に過ぎないのではないかと思います。表に出ていないだけで、今も苦しんでいる子どもたちが日本中にいるのではないかという気がしています。被害を受けている子どもはもちろん、加害者になりかけている子どもたちを何とか救ってあげたいものです。

少なくとも、わが子がそんなことにならないように、今のうちからしっかりと子どもに向き合い、たっぷり愛情をかけて育ててあげてくださいね。